



蓬田村公民館報
 【蓬田門】第59号
 発行所 青森県津軽郡
 蓬田村公民館
 印刷所 蟹田印刷所

明治百年 記念事業計画成る

総合推進委員会において

明治が始つて百年に当り、本村として次のような主旨で各事業を行うことに決定しました。
 幕府専制政体から人民による人民政体の変革に幾多先覚者の血と犠牲が与えられた。
 そして新しい時代は明治元年から始る。
 然し新しい時代になったとは云い、今だ封建性が根強く、諸外国にくらべ文化は低く、教育産業は遅れこゝから日本の新しい苦難の途は続いた。
 その間、心ある者によつて自由民権が叫ばれたが「う余曲折」こみいづためんどうな道、複雑ないきさつを経て今日に至つた。
 明治百年の中に勿論大正、昭和も含まれておるが、今百年を振り返つてみるに、いまわしい戦争、事件等数々あるが、現在平和憲章のもとに生きておる姿を認識し、自覚と抱負にのみ返ることこそ現代人の急務と思れる。
 今こそ百年の流れにおける長短をよくより分け、新しい方向づける秋であります。
 こゝに我が村では先達を偲び、偉

- 業を讀え、村民一人一人の自覚を促し大いなる望みと夢を抱かせ、益々村発展に資するため行うものであります。
- 一、慰霊祭及前夜祭 九〇、〇〇〇円
 遺族会では平和の灯(石燈籠)を玉松台上に建立、その除幕式及び前夜祭を催し先人の霊を慰める。
- 二、敬老会 一〇〇、〇〇〇円
 老人を敬い、生きとし生けぬいた労苦をねぎらい明治の方々へ感謝を申し上げる。
- 三、小、中学校大運動会 七二、〇〇〇円
 今まで通りの運動会のおもむきをかえ児童、生徒に明治百年の意義を知つてもらおう。
- 四、村章、憲章、音頭作曲、振付 六六、〇〇〇円
 各家には家紋がある如く、村にも村を象徴する村章を作る。
 口、村の発展のため村民のよりどころとなる憲章を作り、村の道しるべとする。
- ハ、音頭の曲、振付をして村民が明るく楽しく唄い踊り、心と身

- 五、村民体育大会 七〇、〇〇〇円
 今まで通りのものに趣考をかえ村民一人一人に明治百年を偲び業しものにする。
 更に蓬田音頭作曲、振付けを発表する。
- 六、日消旗樹立式五〇、〇〇〇円
 我が村消防団は全国表彰され、日消旗が授与されたので樹立式を行い村民と共に慶びたい。
- 七、農水産物共進会(文化祭) 一五、〇〇〇円
 農協、漁協とタイアップして、農、漁民の生産品を展示して、増収と品質改良に資する。
- 八、村名称地植樹一五、〇〇〇円
 名後地に記念として植樹して長久後世に伝えたい。
- 九、毎戸記念樹配布 一一四、〇〇〇円

体をやすめる。
 七〇、〇〇〇円
 今まで通りのものに趣考をかえ村民一人一人に明治百年を偲び業しものにする。
 更に蓬田音頭作曲、振付けを発表する。

村体育協会設立準備委員会

開かれ

去る四月十一日午後一時三十分より蓬田村役場において、蓬田村体育協会設立準備委員会を行いました。
 青年団体連絡協議会役員並びに各部落会長、婦人会役員、小中学校長、各部落長等の出席により、協議した結果、体育協会をつくりましょうという事でありました。

蓬田村体育協会、加盟団体個人参加募集
 体育協会設立準備委員会にて決定になりましたので、参加募集いたします。
 参加者は団体又は個人でもよい
 申込切日 七月十日
 申込先 蓬田村教育委員会
 詳しい事は蓬田村教育委員会事務局(電話三〇番)まで

蓬田村章

募集期間を伸ばす

前号を以て村章を募集しましたがが切りが丁度農繁期になりましたので落着いて創作出来なかつたのではないかと判断して左記の通り一ヶ月伸ばしました。
 要綱には変わりありません。奮つてよりよき作品を応募して下さい。
 切日 六月三十日
 明治百年記念事業の一環として、

蓬田村の「しるべ」村章を設定する事になりました。村民の皆様老いも若いも奮つて応募して下さい
 △ 設定の考え方
 家にはその家を象徴する家紋があります。
 村でも村の伝統を誇り、自覚をうながし、良い人、良き村をつくる「道しるべ」として、つくることになりました。

- △ 募集要項
 ① 平和の象徴として、玉松精神をあらわすもの
 ② 伸びゆく蓬田をあらわすもの、色彩は不要、画用紙ハツ切、裏には簡単な図案説明、住所氏名年令を記載すること
 △ 切日 六月末日
 宛 役場内公民館事務局
 注 版權は公民館に属するものとする。
 応募作品は返戻しない。
- 賞金
 入選作品
 一位 五、〇〇〇円
 二位 二、〇〇〇円
 三位 一、〇〇〇円

産経だより

家畜関係予防注射実施手数料補助金（半額）交付について

家畜を恐しい病氣から守るためには完全な予防注射を致しませう。そこで村では次の家畜に対して半額補助を致します。

- 一、豚一頭（大中小共）につき 五〇円
 - 一、牛一頭につき 一〇〇円
 - 一、馬一頭につき 五〇円
 - 一、鶏一羽につき 三円
- 但し自衛予防した鶏で家畜防疫員が数量を確認した鶏に対して、三円の補助を致します。

産業経済課

造林実行者届出について

昭和四十二年度繰越分昭和四十三年度春季造林終了方（植付終了の方）は六月二十五日まで役場産経課まで届出て下さい。なお必ず住所、氏名、植付した山の番地、図面、四十二年度春秋四十三年度春別を記入の上、必ず届出して下さい。届出ししないと補助金の対象になりませんので申添えます。

第二回蓬田村出稼組合総会行なう

去る一月十三日蓬田村役場会議室において総会を行なつた。運動方針、役員は次のとおりです。

運動方針
一、留守中の生活について家族とよく相談して決めること。
二、就労地先を必ず役場に届出

蓬田村憲章について

アンケート依頼

明治百年記念事業の一つとして我が村の憲章を制定し、蓬田村の将来の道しるべとすることにになりました。

村民一人一人が胸の奥底に刻み、常に愛誦し豊かな村造りと明るい村風と蓬田気質の成の確立に資

ること。

三、就労先の条件をよく確認しておくこと。

四、出稼先から一ヶ月に一回以上は便りを出すこと。

五、困つたことがあつたら一人で考えこむことなく地元の安定所、基準監督署、警察署又は出身地の出稼相談所に相談すること。

六、出稼先では健康に注意し元気で帰郷できる様に努めること。

役員

- 組合長 室谷 富太郎（蓬田）
- 副組合長 八幡政秀（広瀬）
- 和田 定衛（中沢）
- 和田 中勇三（瀬辺地）
- 監事 工藤 義政（郷沢）
- 村上 政秀（阿弥陀川）
- 角山 勇治（長科）

連絡員 鳴海 秀秋（中沢）

張間 隆一（長科）

有馬 岩市（阿弥陀川）

工藤 武次郎（蓬田）

福田 昇（郷沢）

飯田 甚作（瀬辺地）

佐井 秀雄（広瀬）

森林軌道あとを道路に

森林軌道（本線）あとを各部落連絡道路に計画
資金は農業用ガソリン税身替資金
工事費 六九、九二万円
延長 三、六八〇M
（中沢、蓬田）
有効副市 五、五M
受益面積 二七五ha

「蓬田音頭」

目下作曲中

蓬田音頭の詞は長い間眠つておりましたが、明治百年に当り作曲し村民一同に楽しく唄ってもらいたくこの度、蓬小校歌を作曲した清野健先生（元弘大教授）に依頼したところ心から喜んでお引受けし、蓬田民風に応しい曲を作りたいと申しております。

七月中旬完成、同時に振付けも発表することになっております。なお六月三十日清野先生は蓬田の由緒、民風を知るため来村して肌ふれ蓬田をみて帰つた。

訂正

前回の「ほうもん」に間違がありましたので訂正いたします。

蓬田子供会世話人

- 会長 津島 源之助
- 副会長 芳賀 長七
- 武井 きのの

前号中連合婦人会総会記事申請りがあつたので深く御詫び申し上げます。

新役員

- 会長 坂本 清江（再）
- 副会長 小野 しさ（夕）
- 武井 きのの（夕）
- 坂本 とこ（新）

するものである。

農繁期の最中希にみる大地震にあり例年になく落ち着けないところですが、一部工事を除く田植も終り、一息ついたところと思つております。

前記憲章について村民有識各位の

提出期日

六月三十日

提出場所

山村公民館事務局

記

なお氏名は都合によつてはお書き下さらなくて結構です。

御手数でも御回答賜りたくお願い申し上げます。

御高見を仰ぎよりよき憲章を作るため別紙の通りアンケート御依頼することになりました。

豊水放談 19

津 軽 気 質

◎ 津軽気質と一口に云つてもさまざまの要素が含まれておると思われる。

その全体の中によい半面と悪い半面があることは云うまでもなく、なにも津軽だけのものでもなく、どこの国にたつて同じことがいえることだらう。

一例を挙げると、薩摩には薩摩気質、土佐に、土佐気風が充分生かされていることは忘れてはならない。

世の中が段々近代化し、通信機関交通網の充実で、東京、大阪、九州も過去のような困難な旅では、なくなつた。

したがつて文化もその地域だけのものではなく全国に最短距離で拡がつてゆく。

それに此例して津軽人でなくてはならぬよい面まで失ないつゝあるようだ。

悪い面はおくびもなく捨てべきであるが、なにもよい面までなげ捨てることもあるまい。

◎ 後進県である、我が青森は総合的文化と、産業開発こそ急務である。

云々と代議士、県会議員の選挙の

ときの演説によくきくことだ。なんか一つ覚えのようなマスコミに酔つているのか、酔わされておるのか、津軽気質から脱皮するところが近代人であるかの如き、妙な錯覚に陥入つていような印象を受けることが度々ある。

津軽のジョツバリ、関西のど根性どくらべてみたくなる。

◎ 三月十四日、NHKテレビ、「こんにちは奥さん」の番組で、テーマは「嫁に行くなら津軽衆へ」若い娘たちを集めての放送でしたが、内容は津軽男性解剖、夫に選ぶ津軽衆への条件、その殆どが標準語でシヤラ／＼しやべり、津軽娘の面影は片鱗もなかつたに驚き入つた。

よくいえば、語学、会話の流暢さは賞するに価あるかも知れんが、もつと方言をとり入れ、ミックスした流暢さが欲しかつた。

◎ 私は感じた。

彼女等は全国放送を意識したかも知れんが、津軽の方言、方言による津軽のユニークな機会だと思つたから

司会は鈴木アナ、津軽弁で云つて

もらいたく時に振れ誘導するんですが、間が悪そうに中々出てこないうちに時間切れ。

鈴木アナ、旧制弘前高校出身、三年間弘前に住み、岩木山を眺め、津軽米を、津軽味噌汁をすすり、津軽りんご、岩木川の水を飲む、春の弘前城の桜の花しづきをあび、夏は岩木川の河童となり若い青春を謳歌した者の一人とせば、もつと津軽弁を以て全国に流し津軽の味を知つてもらいたいことだつたと感じられた。

全国の聴視者に解らぬ方言でも彼は注釈して理解さす能力があるからだ。

彼のもつ若い津軽への面影が破れた感さへ覚えた。

「私も津軽にいたこともある」と水を向けても乗つてこない、そこに彼女等の言葉飾ることのみに努力し、真の津軽の味を出し切れない証拠の現れである。

美徳のよるめきか、全くのてんぶら娘たちと云わざるを得ない。

最後の人物登場で、かつて洞爺丸事件でせがれを亡くしたカツギ屋のオバサンが終始とち／＼な津軽弁で津軽の主婦の持ち味を現してよかつた。

◎ かつて青森市民会館で棟方志功画伯の講演をきいた。

彼はこう青森県を賞讃した。

青森の人は、青森に生れ、育ち、それでいて青森は後進県だ、文化に遅れているこんなひんびな所と自ら卑下する者が多い。

私は感、アメリカと世界を廻つてきたが、どこの国でも青森のよいうな風光名美なところが無い。

水のスイスと云れても十和田湖の比ではない。

それに岩木、八甲田、津軽のりんご園どこをみても津軽の抒情的風情と人情に接することが出来ない。我々は津軽に生れ幸せだと思ねばならない、否、幸せなのだ。

更に皆んなの手で幸せを育て、行かねばならない。

郷土を愛せぬものはどんなに偉くなつても人間のくづだ。

親不孝者に等しい。

東京は文化の中心だという。

そうであるかも知れない、ところがどこを歩いても小鳥の自然の啼き声をきけるか!! 人類平等の恩恵を受ける太陽の光すら浴びることも出来ず、俗化したビルの谷間で税金のかゝらぬ空気すら腹一つばい吸えず腐れ切つたような汚れた空気を吸つて青白い顔をして、毎日／＼疲れ切つたような生活がどこがよいのか、全く可愛想なことだ。

雪に埋れた冬から解放された春の味合い、雪国でなくては真に味合ぬことだ。

それに津軽弁は外国に行くつと便利だ。私は外国語は知らない。

「わアイ、メゴせじや」「ワツ、カチャカチャねじや」などは通訳なしであちらではチャンと解つて

呉れる。

実に重宝だ、教育的用語でないかも知れないが貴重なものゝ一つだらう。

自然に逆境してなんの人間性があるか、自然に抱かれぬものはコセ／＼したガメツ屋ばかり育つのだ。真の人間像とは、母の胎内からはなれ、父母の愛を感じ、自然に抱かれ自然を愛し、自然を探索する人間味たる人間像である。

と終始津軽弁で断論し満堂の聴衆を湧かせ万米の拍手を浴びた。

◎ 津軽に生れ、育つ者は津軽のもつよさを誇りとして、津軽人でなくては使えぬ津軽弁を味合いたいものだ。

津軽弁は通じないものがあるため勢い引込気になるが、なにも卑下することもあるまい。

仙台弁も、福島弁でも歯切れのよい弁ではないのに今では全国に通じるようになっておる。

津軽弁も、持前のジョツバリで堂々と押切つて通じるようにしなくてはならない課題の一つであらう。

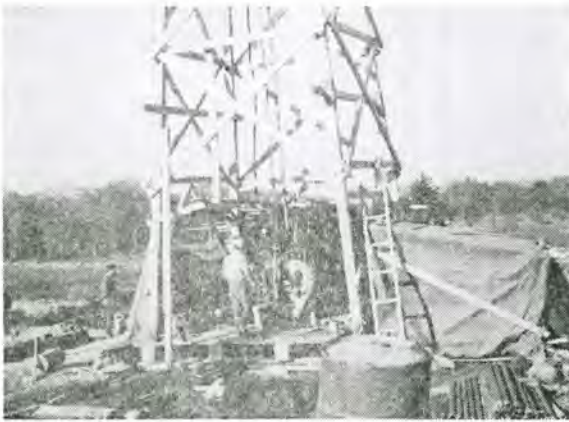
世の中は広い、近視眼的観かたでなく……………。



【写真……開田前の現地】



【写真……開田中の現地】



【写真……水源ボーリング】

開田増段波にのる

今年植付 五十五ha (五十五町) 来 年 五十三ha (五十三町) 中沢長科パイロット地区 二十四ha

はげしい科学技術の発達と高度経済成長に伴い産業構造と生活の変革が余儀されておる今日、地域住民の專業農家確立の叫びが実を結び、弾丸工事の末今年植付可能田は四十六haとなったこの秋には約三、三〇〇俵の生産が予想されることになった。

更に今年から工事を進め四十五haが来春植付けるよう計画実施されようとしておる。

○ 股松地区 二十二ha 原野 (代表 武井巳之吉)

昨年秋季着工し春工事を併せて完工植付けることになった。

水源は堀井戸完工水中ポンプで水上灌水する。

この地区の特色は二十二ha畑苗代から収穫まで一貫して共同作業で近代農業と協業化に一步踏切ったことは高く評価されておる。

○ 鶴喰地区 八ha 畑地 (代表 坂本豊光)

この地区はほんの一部原野で殆ど畑地を開田したもの、水源は堀井戸を掘り毎分三石余自費しており整地も終り、六月十日から植付しておる。

○ 横流地区 十二ha 山林原野 (代表 小鹿賢逸)

この地区はパイロット指定地域として申請したが山林と傾斜面のため除外されたので地域農民が再三協議の結果団体で施工することになり四月末着工六月二十四日頃植付可能となった。

併せて水源を四五〇米の堀井戸に求め、堀中で六月十日まで

完工、水中ポンプで水上げ灌水することになったおる。

○ 中野地区 四ha 原野 (代表 北川健三) この地区は古田続きの原野で今春着工し六月十五日頃完工植付出来るようになった。

水は古田の水を利用しておる。

○ 阿弥陀川汐干地区 原野 六ha (六町) 代表 山谷俊雄 外八名 阿弥陀川旧水溜地 一ha (二町) 部落有共同作業

○ 郷沢 二ha (二町)

いづれも開田植付可能となった。

○ 広瀬地区 二十二ha 増設畑 (代表 越田三之吉)

高根地区 原野 十二ha (代表 久慈寛一)

広瀬、高根も同一地域で高台である広瀬は国有地を増段により掘下げ目下畑として耕作しておる土地である高根は杉林であったが伐採した後地である。

いづれも水源は瀬辺地川からポンプで水上灌水する。

○ あけび平 十五ha 畑 (代表 八幡武雄)

増設畑地区で、水源は広瀬川からポンプで水上することになったおる

○ 更に中沢、長科パイロット地区 (代表 坂本増吉) 四十四ha 中今年着工は二十四haで六月頃着工の運びとなつておる。

こゝ二、三年中には蓬田全域の水田可能の地域は殆ど開田となることは決して夢ではなくなつた。

阿弥陀川地区でも原野三十ha (代表 森初男) 着々計画準備中である

○ 中沢、長科パイロット地区 外中沢浪返八ha (八町) 原野もパイロット事業と併行して着工の運びとなつておる。